



407名

輝け☆輪中!



1月号
〈1月15日発行〉

輪島中学校
生徒指導通信

【1月の生活目標】

規則正しい生活を送ろう

《具体的実践項目》

- 元気よく挨拶をする
- ・ベル着を守る。
- ・5分前行動で遅刻をしない。



☆激動の3学期… 残り68日! 3年生は54日!(登校日…50日、3年生卒業まで41日)



① 2019年 次のステージはすぐそこ!

- ・3年生は高校生、2年生は最高学年、1年生は先輩へとステップアップする年。
- ・最終準備期間となる3学期は、とても短い。

準備中

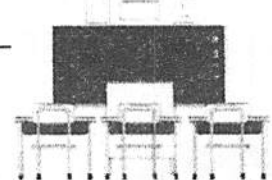
新しい年をきっかけに、変わりたい自分がいるのなら、**一歩前に進もう!**

「だいじょうぶ」大切な言葉に (1/13日 北国新聞地鳴り 14歳 輪島中2年生)

「だいじょうぶ」という言葉は、私にとって前よりとても大切な言葉になりました。最近では良くこの言葉を友達に言っていると思いました。悩んでいるときや、泣いているときに何度も言っていたと思います。「だいじょうぶ」という本の朗読を聞いて、少しでもいいから友達の力になれたかな?と思いました。また、私が悩んだり落ち込んだりしているときは、家族や友達が「だいじょうぶ」と励ましてくれたことを思い出して、この言葉は人の心に寄り添ってくれる優しい言葉だと思いました。

3年生になって受験などのことについて考えなければいけなくなり、自分自身でも「だいじょうぶ」と言い聞かせて、ポジティブに卒業まで頑張っていきたいです。

② さようなら 旧輪島中(お別れまで21日!)



- ・祖父母、父母、兄弟、姉妹等…み～んな通った母校とも、もうすぐサヨナラです。
- ・生徒玄関・教室・体育館・理科室・美術室・音楽室・被服室・相談室・中庭・グラウンド…笑ったり泣いたり、嬉しいときも、辛いときも見守ってくれたのは、この学びやです。

今、どんな思い出が心に浮かんできますか?



2月6日からは、この坂を登る中学生の姿もなく、学校から聞こえた声も聞こえなくなります。

支えて下さった地域の皆さんにも感謝しましょう。お世話になりました。思い出いっぱいこの校舎に、

「ありがとう」の気持ちを伝えよう。



③新校舎に輪島中魂を！…2月5日スタート



- ・待ちに待った新校舎が、皆さんを待っています。
- ・この校舎ができるまでには、たくさんの人々が関わって下さいました。
- ・「体育館の床は、〇〇の方がいいのでは？」「教室には〇〇があれば使いやすいんじゃないか」と、輪島中の生徒のことを考えて、工事にご苦労され輪島中ができました。



そんな皆さんの思いや願いがこもった学校であることを、私たちは忘れてはいけません。

輪島中学校が、新校舎でスタートします。統合から4年目、先輩達が築き上げてくれた伝統に、新たな輪島中魂を吹き込むのは皆さんです。

輪島中学校は輪島市の宝…輪島中の生徒であることに誇りを持ち、外も中身も自慢の学校となるよう努力していきましょう。



☆緊急事態！

勉強と部活動は学校生活の両輪。
だから、部活動のルールはみんなで守る

- ・終礼後、体育館では、各部が練習の準備を始めます。
- ・前半後半の練習日であれば、わずか一時間あるかないかの貴重な時間です。
- ・他の部活動の人は、体育館に入ることはできません。
- ・部活動の道具やボール、用具庫のマットなどは各部活や先生が管理し、勝手に使える物ではありません。安全・安心な学校ではなくなるからです。
- ・これまで当たり前前に守られていたことが、この冬、一部の勝手な行為をする人のために、成立しません。



みんなが困っていることに、気づいてほしい。

ぼんじてって

※凡事徹底 …なんでもないような当たり前ことを徹底的に行うこと

登校時間は、8時20分までに教室。

25分着席→朝礼開始です。

- ・5分前行動や挨拶等、社会人としての礼儀は小さい頃からの習慣で、身に付けましょう。



☆雪道注意！

- ・転ばない歩き方 ①小股で歩く②重心を低くする③足の裏全体を使う
- ・「心構え」①急がない②足もと以外のものに気を取られない③両手を使えるようにしておく

☆こんなステキな中学生！

ゴミ運ぶ学生に感謝 (砂崎 静子 九十一歳 金沢市)

1月4日午前9時ちょっと前のことです。年末年始にたまった多くのゴミを集積場へ持っていこうとしました。高齢の上、あいにく足を痛めている私は、重いゴミ袋を左手に、右手につえを持ち足場の悪い雪道をふらつきながら一歩一歩足を前に出していました。

その時後ろから「しまししょうか」と声をかけてくださった学生さんが、サアッと荷物を受け取り走って捨ててきてくださいました。私はありがたくて、戻ってこられた学生さんに深く頭を下げ「ありがとうございます」とお礼を申し上げました。学生さんは立ち止まり私に向かってお礼をなさったのです。

本当に感謝のほかはありませんでした。その学生さんは森本中学校の方です。部活に行かれる途中だったと思います。

(一月十三日 北国新聞 地鳴り)

